

8月6日に天王寺区のNPO 法人精神障がい者支援の会ヒットに伺い事務局長の芦田邦子さんに話を聞く。

退院者及び在宅の当事者が今の生活から一歩進んで地域の中で生活する場として当事者の状態に応じた居場所を色々な形式の複合施設を運営されている。

視察させていただいた「むつみ工房」は一般就労を希望する人に対して、手作り弁当を製造・販売を通じて一般就労に向けた訓練をやっている。

「あしすと」は自分のペースで作業したい人や、一般就労への準備を希望する人に対して軽作業や清掃など行っている。「トータスハウス」は地域に愛される“街の喫茶店”を運営していて、調理、食器洗い、店内の清掃など様々な作業を当事者が行っている。常連のお客さんも多くふれあいが魅力になっていて当事者も状態によっては気軽に過ごせてスタッフの当事者とお互いに支え合うことが出来る居場所になっている

また、注目すべきは、ピアヘルパー事業で、当事者のヘルパーが当事者であるユーザーの日常生活支援や外出の同行支援を行う。



ピアサポート事業は退院支援に関して入院患者に対する支援を行っている。

施設のある3区の当事者会(せせらぎクラブ)が行っている電話相談・交流会も支援している。

精神障がい者“語り部”事業(精神障がい当事者による出張事業)は、当事者が講師として学校等を訪ねて、自らの病気の体験や生活の様子を語ることで社会貢献になり自信と誇りを快復させることが出来、病気になったことを悲観するのではなく積極的に受け入れて、経験を伝えることで前向きに生きることが出来、ギャラも貰えるので一石二鳥三鳥になると当事者は喜んでいる。

最後に、自分たちの始めた事業を独自に国の事業に合わせて事業展開している、と芦田さんから話を聞く。

8月7日に池田市の精神障がい者地域活動支援センター咲笑(さくら)の管理者・野田美紗子さんに話を聞く池田市といえば大阪教育大学付属池田小学校事件があり地域の精神障がい者にとって非常に不安な状況での生活になっていたときに、倉田薫市長が「通うこともなく孤立することが問題で、居場所を増やすことが事件を防ぐことにも繋がる」という考えから地域で活動支援センター設立を目指しているときだったので前倒しで援助する英断をくださる。

ここの特徴は、作業や拘束される時間などなく自由に過ごすことのできる居場所であり、活動はいずれもメンバーの提案で行い、サービスを受ける側、サービスを提供する側になったりしながらマンパワーを発揮することで運営されていて、メンバーの痒いところに手が届く支援センターであることを感じる。

土曜・日曜も開設し、メンバーが行くところが無い状態を避けるために他の施設が休みの時

